

# ホストファミリー体験記

我が家はデンマークからの留学生、Hannah のホームステイ(10か月)の受け入れをしました。受け入れを決めた時は長男が南高2年生、長女が中学2年生の年度に来日する予定だったのですが、コロナの影響で延期に延期が続き、結局実際彼女が来日できたのは長男、長女ともに3年生になってからのことでした。滞在は4月から2月初めまで。まさに受験期と重なるため、受け入れの意思を確認されたときは全く迷わなかったわけではないのですが、待機中にHannahとビデオ通話でたくさん話していく中で彼女を応援したい思いも募り、我が家の受験生たちも留学生がいても自分たちのペースを崩さず頑張れると言ってくれたので受け入れを決めました。

結果的に、受け入れて良かったです。大変なこともたくさんありましたが、やはり異文化を体験するのはいいものです。自分たちの「当たり前」が当たり前でないことを体感し、日本にいながらにして日本の生活を愛おしく感じることができました。たい焼きとかたこ焼きがそこらへんで買えること、ガリガリ君の驚きの安さとおいしさ、いろんな気候や食文化がこの列島に詰まっています、ちょっと電車に乗ればすぐ味わえるという素晴らしさ、年をとってからは人が多くて疲れるだけと思っていた東京の奥深い面白さ、小さなことから大きなことまで本当にいろいろなことを再認識しました。この国に対して不信感ばかりが募りがちな日々でしたが、…そこは変わらないにしても、日常の中で楽しめること、感謝すべきこともたくさんあるということ思い出し、「普通の日々」がカラフルになりました。



また、見直したい「当たり前」の発見もありました。それは、生きるペースです。デンマークの学校の仕組みを聞いていると、何やら複雑で、高校生や大学生になる前になんとかという期間があり、かんとかといういろいろな興味に合わせた国のプログラムがあって、それに参加したりしなかったりするという…。じゃあ何歳で高校生になるの?と聞いたら「1年生は大体16~18歳かなあ。」との答えでした。学校では「人生は長いんだから、ゆっくり生きなさい。」と教わるのだそうです。私は自分の子どもたちに対してなんとなく当たり前「中学卒業したらすぐ高校、高校卒業したら(なるべく)すぐ大学」と思っていました。でもそう言われてみれば人生は長いんだ。(国によって仕組みが違うにしても)なんでそんなに急かしているのか。急かさない国、家庭で育ち、ゆっくりじっくり生きている17歳の女の子を家族に迎え入れたことで私が得た一番大きなものは、この疑問の発見だったように思います。

Hannah 自身は、休みごとにいろんなところに繰り出して行って若いエネルギーでいろんな刺激を吸収していたようです。学校でも所属学年を超えてたくさんの友達を作り、先生方をはじめ多くの方々にも支えてもらって、良いステイになったのではないのでしょうか。ホストマザーとしては注意すべきことをうまく伝え方で伝えられなかったなど、反省は多々ありますが、彼女に関わってくださったすべての方の助けがあって、Hannah は日本が大好きなまま涙ながらに帰国しました。こうして思い返していたら Hannah が恋しくなってきました! 以上、坂田家のホストファミリー体験記(母目線のみ)でした!!

